

協働ニュース しなもん 品聞



発行:品川区・協働ネットワークしながわ

協働ニュースの名称が決まりました！



品川区内の様々な「協働（※）」に関する情報を発信する「協働ニュース」の名称が公募による審査の結果、「品聞（しなもん）」に決定しました。品川区の「品」と新聞の「聞」の2つの文字が、品川区の様々な協働に関する情報を発信する協働ニュースの名称にピッタリと運営委員会、満場一致で決まりました。

※ 品川区における「協働」とは…区民、町会・自治会、NPO・ボランティア、学校、企業、区などの様々な主体が、お互いの立場や特性を尊重しあいながら、連携、協力して継続的にまちづくりを進めていくこと

第1号は「子育て支援」の特集号です。品川区で行われている子育て支援に関する様々な協働の取り組みを紹介していきます。

「品川子育てメッセ」に学ぶ協働の要

2013年7月5日(金)「きゅりあん」にて「品川子育てメッセ2013」が開催されました。毎年3000人以上の来場者を集める品川区最大の子育てイベントです。

NPO法人ふれあいの家—おばちゃんち 代表 渡辺美恵子

今年で第6回目を迎えた子育てメッセ。この開催は、まったくもっておばちゃんちの事業の立ち上げ方「やってみたい人がやってみる」そのものだった。以来恒例となった夏のハシリに行われるこのイベントは、当初予算にもなく、おばちゃんちのメンバーの合意もなく突如始まった。起爆となったのは初めてのわが子の子育てに悪戦苦闘、必要な情報が何かさえわからない中での手探りの子育てに怒りさえ覚えていた一人の母親の熱い想いからだった。

この岩をも砕く想いこそ協働の第一の要といってよい。パートナーを選ぶときミッションがぶれてはまずいのだ。そして、おばちゃんちはこの想いを後押しすることになった。彼女を取り巻く子育て仲間が次第に増えていった。当時先進的に始められていた子育て情報見本市が〇〇で開かれるという情報を聞きつけては見学や取材に行き学んだ。また、お金集めにしても、協力者を募るにしても、自分たちの想いだけを押し付けてはだめで、相手の気持ちを動かす知恵と工夫が必要なことも学んでいった。学びは第二の要である。

第三の要はパートナーシップ。これが一番の難関だった。想いは同じようでも形を作ろうとすると違って来る。これまでまったく出会ったことのない人々が親子3000人規模の集客をするイベントを創るのだ。その帰着するところは第一の要である「ミッションの簡素化」と第二の要「学習の修練」とが鍵となる。そうして、3年目、メインテーマ「つながる・つたえる・めぐりあう子どもといっしょに広がる世界」が誕生した。今年で第6回目を迎えた。継続はまさに力である。

子育て中の母親で構成され、毎年半数くらいは新旧入れ替わる実行委員会が様々な子育て情報を提供してくれる団体や企業、行政などと共にイベントの中心を担ってきている。「協働」とは同じだけの力を出さなくたっていい、その働き方はパートナーとの合意があればいろいろあっていいと考えている。



(イベント会場の様子)



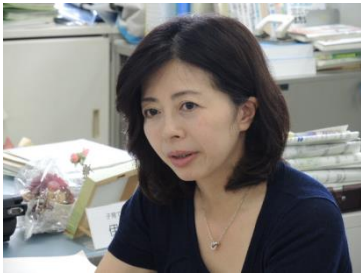
品川区における子育て支援に関する協働の方向性を探るため、伊崎子育て支援課長にお話を伺いました。

■親として子どもを産み育てる喜びが実感できる社会に

編集部：品川区の子育て支援のポイントをお願いします。

伊崎子育て支援課長（以下「伊崎」）：地域で支え合い、次世代を育むことが区

の基本方針です。親として子どもを産み育てる喜びが実感できるような子育て支援を心掛けています。親になることによる



負担ばかりに目を奪われがちですが、親になることの喜びを伝えていきたいです。これから親になる世代の子どもたちが、学校の市民科の授業や部活動の中で赤ちゃんといふれあうことができる機会を作る、赤ちゃんいれあい事業を行っています。子どもたちが親になる前の早い時期に、子育てに対するポジティブなイメージが育ちます。また、親も、自分の赤ちゃんが可愛がられている姿を見て親となった喜びを実感できます。

編集部：品川区の子育て支援の方針の実践といえる、とても素敵な事業ですね。

伊崎：大変好評です。また、区や各地区の特性、団体や企業、個人のスキルを子育て支援にどう活かすかということも大切です。児童センターの役割として、自主活動をサポートする事業も行っています。親が自主的にサークルを作り、それが次世代に受け継がれていくような流れができるといいと考えています。子育ては教科書通りにはいきません。できないことも仕方ないと考えられることも大切です。そういう視点での支援が必要だと考えています。

編集部：自分からそこへ足を運ぶことをしない方や、地域のコミュニティに入りにくい方も多いと思います。

伊崎：確かに、昔に比べて自然なコミュニティが生まれにくくなっています。区と地域が気軽に足を運べる場を作り、一緒にコミュニティを育てていく必要があると思っています。やはり、いかにそこへ足を運んでもらうかが課題になります。足を運んでもらうように働きかける方法などと、人と人とのつながりが大事だと思います。

■区や地域の特性を活かした委託や協働を

編集部：区が考える協働の形とは？

伊崎：区や地域の特性を活かしてそれぞれの立場で力を積極的に発揮してもらいたいと考えています。同じ目的に向かって、NPO 法人や任意団体、企業や個人が持っているスキルをどう活かすかを、一緒に考えながら進めていくことが協働だと考えています。区は地域に対し、場や機会の提供、コーディネーターの役割を担います。各地域でネットワークをつくり、地域活動をその地域の人たちが支援していけるような流れを円滑にするためのコーディネートや後押しをしていきます。

■同じ目的に向かっていろいろな立場から知恵や力を出し合える社会へ

編集部：地域の NPO 法人などの団体や企業に対して望むことはどのようなことですか？

伊崎：楽しく子育てのできる社会をつくるという同じ目的に向かって地域の団体や企業にできることがあれば、積極的に出してもらいたい。



企業も地域の一員として、お互いにウィンウィンの関係を作る努力をしていきたいと思っています。いろいろな団体や企業が子育て支援に参入すれば、選択肢が増え、支援に厚みが増します。NPO 法人でも区が事業全体を委託できるケースもあれば、事業の委託は難しいが事業の一部で協働できるケースもあります。区は協働する相手の力を見極めていく必要があると同時に、地域の団体や企業の方には、自分たちが「何をしたいか」だけではなく、「できることは何か」もしっかりと見極めてほしいと思います。

編集部：ありがとうございました。

※ インタビューの全文は「しながわすまいるネット」
<http://shinagawa-smile.net/> 内の「協働ネットワークしながわ」のページから閲覧することができます。

PART① 「NPO法人 地球野外塾」×「株式会社ウイングル」

7月25日、子どもから大人まで幅広く自然の中で原体験をする機会を提供している「NPO法人地球野外塾」と大井町駅前では子どもの発達をサポートする教室を運営する「株式会社ウイングル」の協働による特別プログラム「奥多摩洞窟探検」が実施されました。参加者は親子参加も含めて23名。4歳から中学生まで幅広い年齢の子どもたちがワクワクドキドキの洞窟探検を体験。ヘッドライトを装着してすっかり探検隊になりきった親子など、この日を楽しみにしていた様子が微笑ましく感じられました。鍾乳洞は暗くてとても狭いうえ、アップダウンや足場が悪いところもあり、40分近くかかりまし



たが、子どもたちはスタッフが思っていた以上の頑張りを見せ、大きな達成感に目を輝かせていました。子どもたちはその後3kmの林道を懸命に歩いたので川遊びをする時間ができ、スタッフも子どもたちが無邪気に遊ぶ姿を眺めながらホッとするひとときでした。



今回、初めての協働で地球野外塾とウイングルは課題を共に解決し、自然と触れ合うことで子どもたちが普段と違う様子を見せてくれたり、親子で体験を共有することの素晴らしさを実感する場面を共有できたことで、お互いに貴重な機会となりました。

PART② 「NPO法人 品川こども劇場」×「一般財団法人 ^{りっこうかい} 六行会」

「品川こども劇場」は、自分たちが暮らす地域で生の舞台を見たり、直接人とかわりあって遊んだり、「とびっきりのこども時間」を過ごして欲しい、そんな願いからスタートし、自分たちの手で「舞台鑑賞会」や「体験活動」を作る自主的な集まりです。2年前からNPO法人として活動しています。

「六行会」は品川の地域で社会貢献活動を150年以上にもわたって行っている歴史ある団体で、日本で一番古いNPOとも言われています。平成6年、地域の文化・教育の発信点に寄与したいと願い、「区立図書館」と「六行会ホール」ならびに集会施設「荏川倶楽部」を新設。現在は一般財団法人として活動しています。

この2つの団体の協働が始まったきっかけは、品川こども劇場とつながりのある劇団の人から「六行会ホールという素敵なホールがある」「こどもたちのために使えないか」との呼びかけから。品川こども劇場の「こどもたちに文化を」という思いと六行会の「地域に文化・教育を」という思いが上手く重なったことも大きな流れとなりました。

毎年夏には演劇と音楽のフェスティバル「六行会チルドレンズフェスティバルIN品川」を開催。今年の7月は13回目の開催となりました。

協働していくことの良さはお互いの強みを活かしていけること。「舞台鑑賞会」や「体験活動」に関するアイデアやノウハウを持っている品川こども劇場、文化的な活動を行うホールを持ち発信力のある六行会、お互いの強みが生きていくことで活動に広がりが出てきました。



こどもたちが本物の生の芝居を観る、そういった体験をしていける機会が品川の地域で徐々に広がってきています。

これからは、より地域づくりに目を向けながら活動の幅を広げていきたいという展望を持っており、協働の取り組みに更なる発展が期待できそうです。

身近な社会貢献活動



品川区内の地域とも連携し社会貢献活動をしている清泉女子大学ボランティアセンターの学生ボランティアの活動のひとつに「フェアトレード」の啓発活動があります。

フェアトレードとは発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することを通じ、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す活動で、身近でできる社会貢献活動として注目を集めています。品川区地域活動課ではこの啓発活動に賛同した職員有志が、清泉女子大学のボランティアの協力

を得て職場で飲む紅茶にフェアトレード製品を取り入れており、活動や啓発に協力しています。

身近で簡単にできる活動の中にも協働して社会貢献できるものがまだまだあるかもしれません。ぜひ身近なところでもできる小さな活動を見つけてみてください。



課の窓口に置いてあるフェアトレードの説明

「協働ネットワークしながわ」施設見学会



9月10日(火)、大井町にある

「NPO 法人夢の地図 みんなの家 ゆめっこ」を訪問。



「いつでも、だれでも、必要な時間に必要だけ」子どもの託児保育から、発達障がい児への「運動あそび」を提供しています。

続いて「学習塾 Leaf プロGRESS大井町校」を訪問。子ども一人ひとりに合わせたサポートをしています。



参加者がソーシャルスキルクラスの授業を体験。コミュニケーションのしかたを楽しく学び、最後に皆で記念撮影。笑顔でプログラムを締めくくりました。

「協働ネットワークしながわ」は、どなたでも入れる会員制で施設見学会の他、学習会、情報交換会などを行っています。社会貢献活動をしている方、協働に興味のある方はお気軽に問い合わせください。

地域活動課 協働・ふれあいサポート係 〒140-8715・東京都品川区広町 2-1-36

TEL : 03-5742-6693 MAIL : chikikat@city.shinagawa.tokyo.jp

お知らせ



「発達特性の理解と対応 ステップアップ講座」

NPO法人パルレが品川区から委託を受けて行われている思春期サポート事業では、毎年、発達特性をもつ子どもとの関わりを学ぶ講座を開催しています。次回は11月9日(土)18:00~20:00に開催されます。

【講師】上原芳枝 先生 (NPO 法人リソースセンターone 代表)

【会場】品川区立中小企業センター大講習室 (西品川 1-28-3)

【資料代】500円

興味のある方はNPO法人パルレ(思春期サポート事業)までご連絡ください。

メール : moushikomi@gol.com 電話 : 03-5782-7650



(9月14日、第1回目の講義様子)